

核融合エネルギーフォーラム

シンポジウム

「未来社会と予報（予測）の学術」

はじめに

より良い未来社会とは？

災害のない社会、犯罪のない社会、ロボットが働く社会、病気のない世界、経済が安定した社会、環境負荷の少ないエネルギーが安定供給される社会、、、



事前に分かっていたら、対応可能なものも多いのでは？

準備し対応するには予測・観測が必須

予測・観測に学術はどう貢献するか？

本日のパネリスト

海・大気・地球磁気圏: "流体"の予測

温暖化の未来予想

竹村俊彦(九州大学応用力学研究所)

データ同化とその応用

広瀬直毅(九州大学応用力学研究所)

宇宙でのプラズマ現象の予測
(宇宙天気)

海老原祐輔(京都大学生存圏研究所)

予測のニーズとシーズ

核融合プラズマの突発現象

篠原孝司(東京大学大学院新領域創成科学研究科)

データ科学が拓く未来予想

藤澤克樹(九州大学マス・フォア・インダストリ研究所)

社会科学が予想する未来予想

吉田謙太郎(九州大学エネルギー研究教育機構)

D1: 予測は100%ではない

現状どのくらいか?

100%でなくても、「警報」だけで有用なのでは?

暴風雨の後に「川崎病」(症例の少ない病気)が流行る、という警報でも診療の現場では有用

予報精度が1%上がると経済効果はどのくらいか?

核融合炉では不安定性の緊急回避を1回行うとどのくらい損するか?